

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0770102499		
法人名	医療法人社団 敬愛会		
事業所名	敬愛シニアガーデン桜堤		
所在地	福島県福島市八木田字井戸上50-1 (電話)024-545-6312		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 88歳	最低	75歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島西部病院、福島南循環器科病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福島駅西部、上八木田橋〔桜堤橋〕中腹の田園地帯に施設がある。また、福島市のシンボルである吾妻山を一望できる。春には桜堤公園の桜が一面に咲き、利用者を楽しませてくれる。開設してまだ二年もたたないが、個性豊かな利用者の個別ケアに職員全員で取り組んでいる姿が見受けられる。毎日の利用者一人ひとりの記録を作成し、毎月家族にお知らせしている。家族等にとって職員の見守りは安心と信頼関係を築いている。また、重度化や終末期について「看取りに関する指針」を作り、同意のもと実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点、「職員が弁当を持参している」について、現在は利用者と同じメニューを摂るように改善した。同じ食材を食べることで味付けや堅さ等に気づき、利用者と一緒に調理方法など工夫している。「日中玄関の鍵をかけている」について出入りの際チャイムや光センサーで対応し、鍵をかけないように改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長、管理者、職員全員で自己評価に取り組むことで、多くの気づきや改善点があった。その気づきや改善点を話し合い介護計画に取り入れている。自己評価を作成することにより、職員の資質向上となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	2ヶ月に一回運営推進会議を開催している。利用者家族、地域からの出席者も多く、地域包括支援センターの職員による「認知症について」の勉強会も行っている。会議の内容は、施設運営の2ヶ月ごとの活動報告や事故報告、利用者本人、家族からの苦情の報告を行い、情報を共有して今後の改善のため意見交換を行っている。特に火災、災害時の対応、協力体制について話し合いを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会に来る家族の相談や希望についてその場で話し合い、改善に向け対応している。また、家族からの意見、苦情等については運営推進会議に取り上げ共有の情報として話し合い、改善に向けて取り組んでいる。なかなか面会に来れない家族等には、施設から毎月利用者の様子をお知らせするとともに、意見や希望などをいただいている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。グループホームの行事などを回覧板でお知らせして、地域の方々の参加を呼びかけている。町内の老人会「ふれあいサロン」に参加し、交流している。また、定期的にボランティアや幼稚園児の訪問があり、親睦を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から地域とのつながりを重視し「地域の人々と共に出来る限り自立した生活が出来るような支援、家庭的な環境の下で自然を楽しみながら、心豊かに暮らせるような支援」を理念にあげて、運営している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は理念を共有し、町内会の行事に参加する等地域との親睦に勤めるなどして日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、地域の活動に参加している。利用者がホームに入居する前から参加していた町内会主催の「ふれあいサロン」に入居後も希望により引き続き参加し、地域の方と交流している。また、事業所のお便りを回覧板で回していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組み、いろいろな気づきや改善点を話し合った。前回評価の改善点である職員が弁当を持参していたことについては、利用者と一緒に同じ食事を摂るように改善した。改善することによって味付けや食材についてもいろいろな気づきを得ることが出来た。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催している運営推進会議には利用者の家族や地域住民が参加している。施設からの連絡、報告を行ったり、地域包括支援センター職員の協力により「認知症について」の勉強会を行うなど参加者と職員が情報を共有し、意見交換などを行っている。それらの意見を活かし、サービスの向上に努めている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の毎日の様子を記録し、月に1回家族に郵送している。また、2ヶ月に1回グループホーム便りを作成し、行事のお誘いや報告を行っている。職員の退職、異動については運営推進会議にて報告しているが家族には報告していない。</p>		<p>職員の異動や退職は、家族にとっても不安要因になりやすいため、家族に郵送するグループホーム便りなどで報告してほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設内に投書箱を設置している。また、第三者委員会を設けている。面会に見えた家族とは随時話し合っている。なかなか面会に出来ない家族に対しては、毎月郵送しているお便りのあとに寄せられる意見、要望の改善に取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニット間で半年に1回各ユニットから職員1名づつの異動を行っているが、それぞれのユニットの利用者と顔馴染みになり、利用者の身体面、精神面を知ることにより良い関係を築いている。職員の離職を少なくするように職員からの要望等を聞くなどの対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会が開催する研修会に職員が交代で参加している。また、月に1回内部で学習会を行い、職員の育成の取り組んでいる。職員ごとの育成計画などは作成していない。		運営者は職員と話し合いながら職員の経験に応じた育成計画をつくり、職員の育成に努めてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホーム連絡協議会主催の管理者研修会へ必ず出席して情報交換などを行いながら、交流を深めている。また、職員が交代で他のグループホームを見学に行き、交流を持ちながらサービスの良い点を学んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に生活の知恵や過去の経験を聞くなどして学びながらよい関係作りに努めているが、職員からの問いかけや働きかけが少ない。		職員は、認知症について学び共に過ごし支えあう関係性を築くために、日頃あまり自ら話さない利用者であっても必要に応じ、問いかけや働きかけを多くしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの希望や不満を生活の中から汲み取り、納得のいく生活が出来るように努めている。しかし、利用者の思いや意向を把握するための話しかけが不十分である。		日頃のコミュニケーションの中で声かけや問いかけの回数を増やすと共に、職員間で話し合い利用者の思いや意向を共有してほしい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日記録した介護記録をもとに週1回ユニット別で検討会を行い、利用者本人の生活課題について話し合っている。検討会の記録をもとに利用者、家族、かかりつけ医と改善点を話し合い、その結果を介護計画に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごと及び必要に応じ随時介護計画の見直しを行っている。また、毎日の介護記録、利用者、家族からの希望などを取り入れた介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族等の希望を尊重して、かかりつけ医の受診支援を行っている。また、家族が対応できないときには職員が対応している。系列の医療機関から、1ヶ月に2回の往診を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームの職員全員で話し合い「看取りに関する指針」を作成している。重度化や終末期のあり方について、その指針をもとに利用者本人、家族、かかりつけ医、職員で話し合い、共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに対して声かけ、対応には気配りしている。排泄や入浴時には希望により同性介護を実践している。個人情報のファイルはきちんと保管し、廃棄時はシュレッダーを使用している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外食や昔よく行っていた温泉に入りたいなどの希望があるときは、職員が付き添い支援するなどして、利用者の想いを受け止め、利用者一人ひとりの生活に添った支援を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前回の自己評価「職員は弁当を持参している」は改善され現在は利用者と一緒に調理をした同じものを食べている。しかし、献立や好みなどの会話も少なく、短時間で食べ終わっている。		食事中の支援について職員間で話し合い、食事を楽しむことのできる支援を実践してほしい。また、食事は利用者の体調や精神状態を把握するための大切な時間でもあることを理解してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望の時間に入浴できるよう支援している。また、お湯の入れ替えを行い衛生面にも配慮をしている。仲良しの利用者と一緒に入浴したり、入浴剤などを使い、入浴が楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	調理、花壇の手入れや草むしり、ゲートボール、買い物やドライブなどの「役割や楽しみごと、気晴らしの支援」を行っているが、職員間で支援方法等が十分に共有していない。		よりその人らしい暮らしの支援が一貫して行えるよう、支援方法等について職員間で話し合うなどして共有する取り組みをしてほしい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	町内会が主催する「ふれあいサロン」や近くの老人福祉センターの行事に参加したり、希望により買い物や散歩にいつでも行けるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の自己評価で取り上げられた「日中帯も鍵をかけている」は改善され、現在は人の出入りの際チャイムや光センサーを設置して、鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で災害時の対応について話し合い、地域に協力を得られるように働きかけている。消防署の協力により避難訓練や消火器の使用についても訓練をしている。災害時の食料も準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分の摂取量を介護記録に記入している。利用者の好みや摂取状況を職員が把握しており、バランスの取れた栄養摂取の確保に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者が自由にくつろげるようにソファが置いてあり、和室には掘ごたつもある。廊下の壁には四季折々の行事の写真が飾ってあり、利用者の居心地良くすごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を尊重し、自宅から持参した家具や利用者が選んだ家具で工夫されている。職員は家族等の協力も得て、利用者の個性あふれる、過ごしやすい居室になるように支援している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 敬愛シニアガーデン桜堤

記入担当者名 金沢 幸子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。